

図 3 ※ 浅間山 最近の火山活動の推移 (2002 年 1 月 1 日～2009 年 5 月 31 日)  
 ③の二酸化硫黄放出量グラフは産業技術総合研究所のデータも含む  
 ⑩の光波測距観測の測定は浅間山火山防災連絡事務所、補正処理は気象研究所 (2008) による  
 注) 2008 年 7 月より黒斑山の高感度カメラを監視に用いており、火映の検知能力が向上している

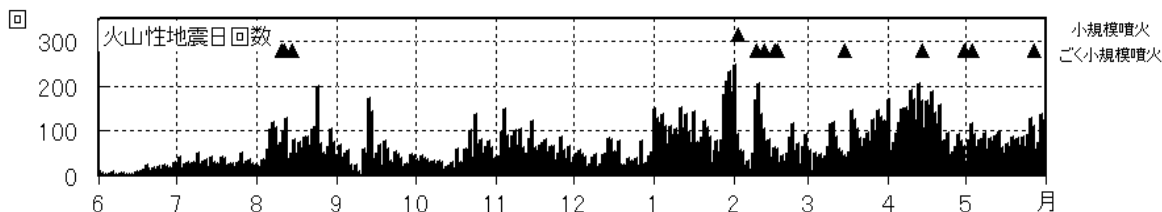


図 4 浅間山 火山性地震の日別回数 (2008 年 6 月 1 日～2009 年 5 月 31 日)

GPS 連続観測

浅間山周辺4点で GPS 連続観測を行っている(図3). 気象庁火山センターの観測点3点とともに基線解析を行った.

2008年8月以降, 浅間山周辺では膨張を示す変動が継続していた. **2009年2月以降は一部の観測点で沈降傾向となったが, 山体の北西側の膨張は継続している(図4の③, ⑥).**

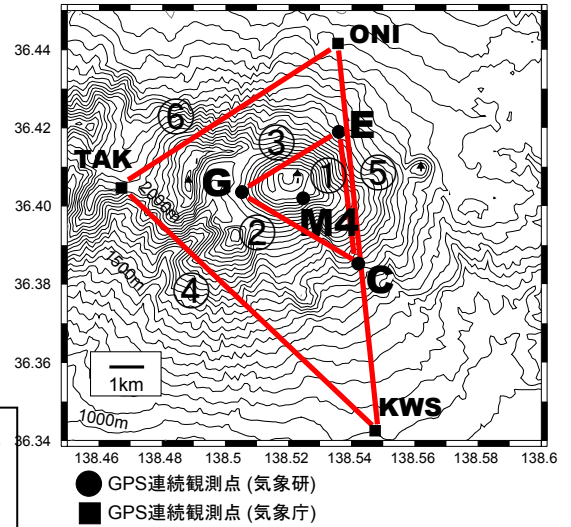


図3 GPS 観測点配置図

対流圏補正はメソスケールモデル(MANAL5km 格子)の客観解析値を用いる手法を適用した. M4 以外はテレメータ観測点. 山頂部の M4 は2008年5月以降のデータ未回収であり, 現在の変動は不明. M4 と光波測距観測網の M4 と同一の観測点.

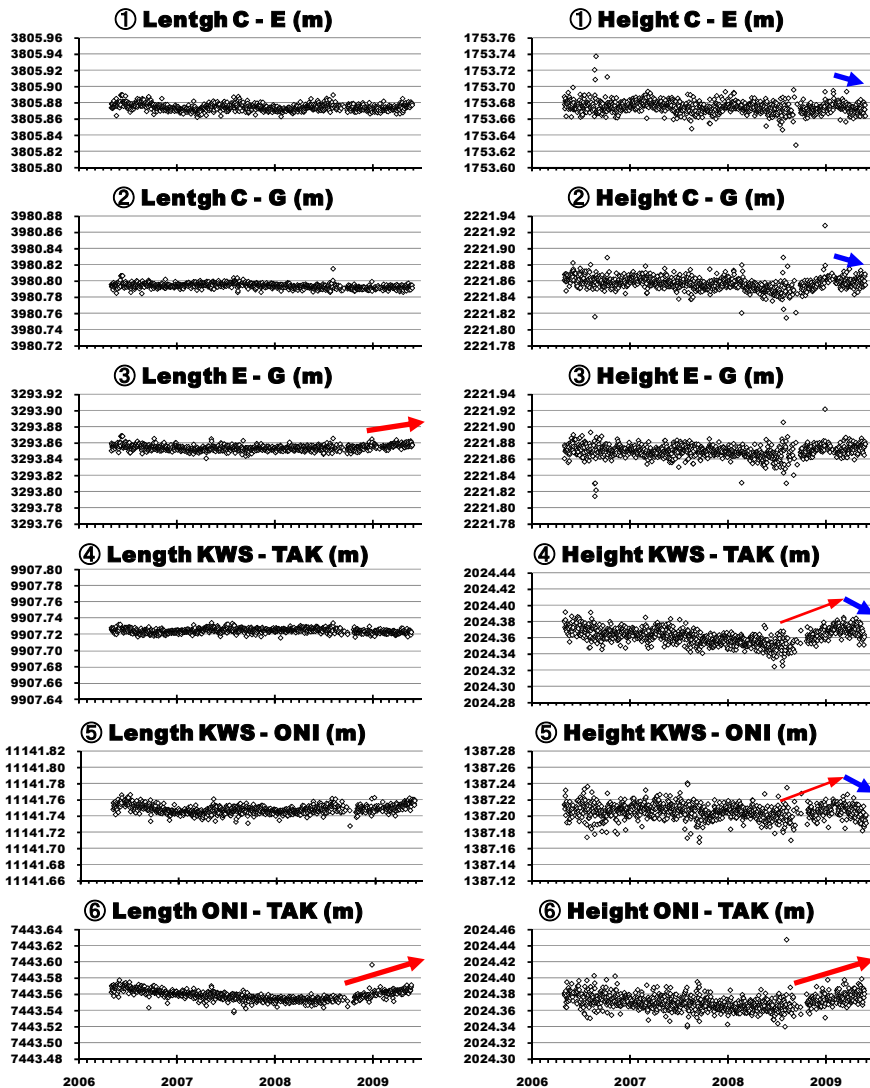


図4 浅間山周辺の基線長(左)と高さ(右)変化 (2006年4月~2009年6月1日)



図 1 桜島 3月10日05時22分の爆発的噴火

- ・弾道を描いて飛散する大きな噴石が2合目（昭和火口から2 km 付近）まで達した。
- ・噴煙は、火口縁上 1,200mまで上がり南へ流れた。
- \* 図中の白枠内は弾道を描いて飛散する大きな噴石。
- \* 九州地方整備局大隅河川国道事務所設置の高感度カメラによる。



図 2 桜島 4月9日15時31分の爆発的噴火（鹿児島地方気象台より撮影）  
噴煙は、火口縁上 4,000m 超えて南西へ流れた。

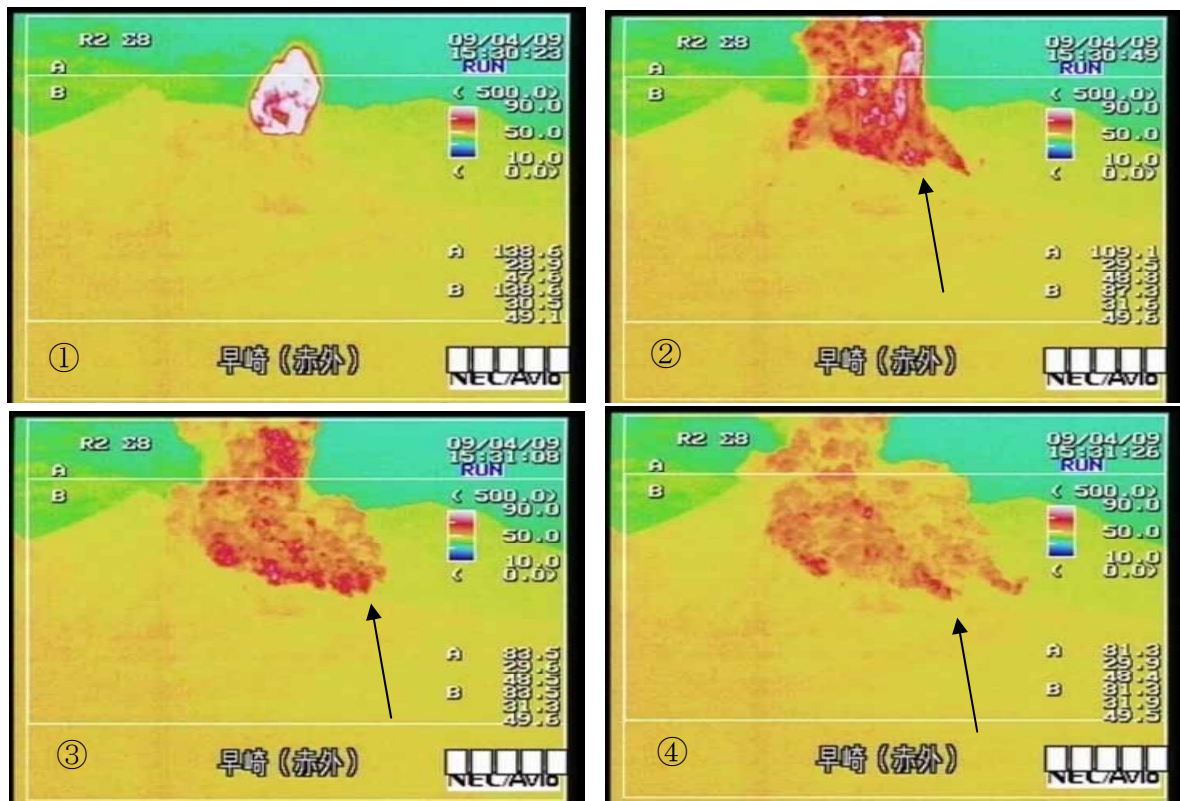


図 3 桜島 4月9日 15時31分の火砕流が流下する様子

火砕流（矢印）が昭和火口の東側約 1 km の範囲に流下した。

\*九州地方整備局大隅河川国道事務所設置（早崎）の赤外熱カメラによる。



図 4 桜島 4月9日の火砕流の流下跡

地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 25000（地図画像）』を複製している。

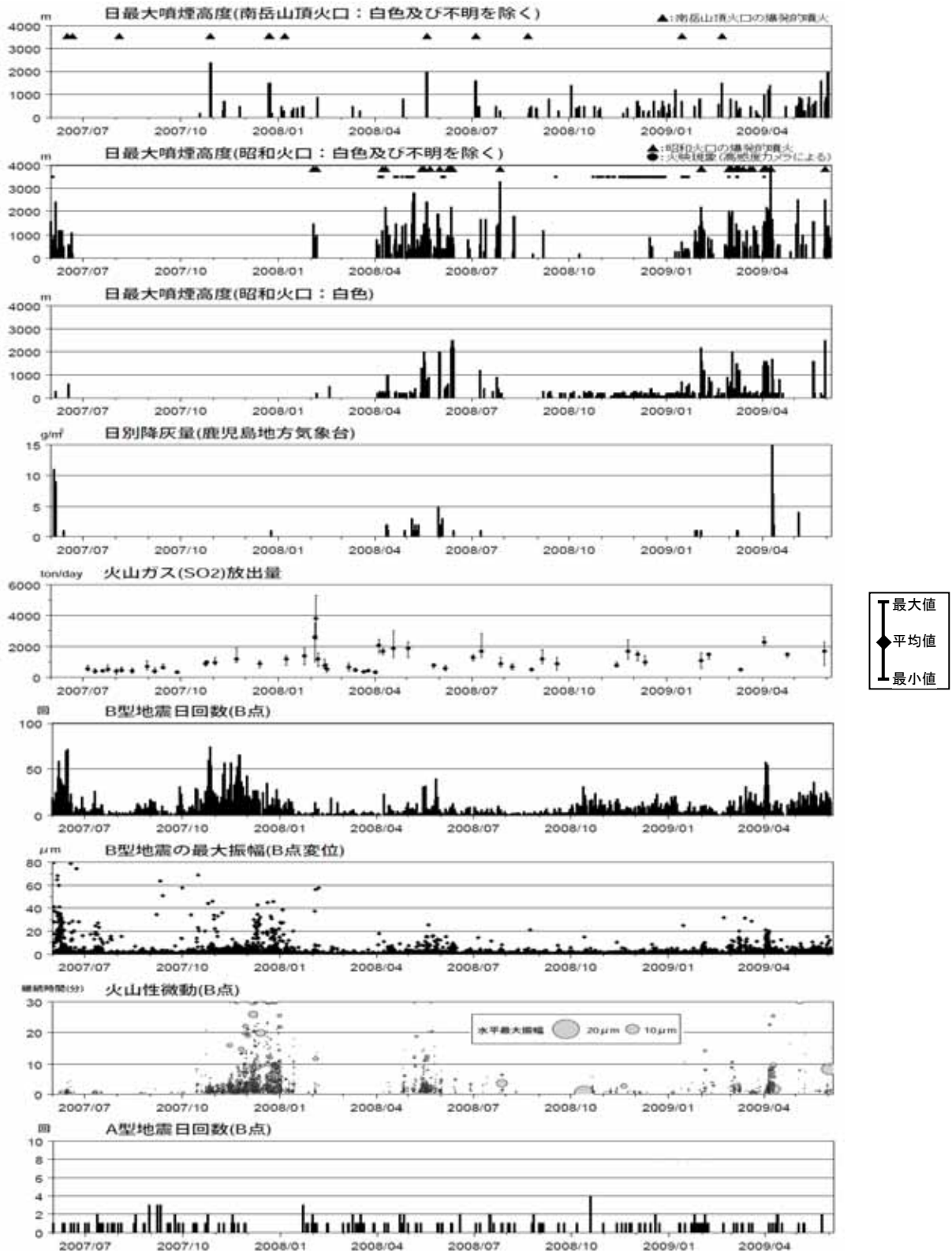
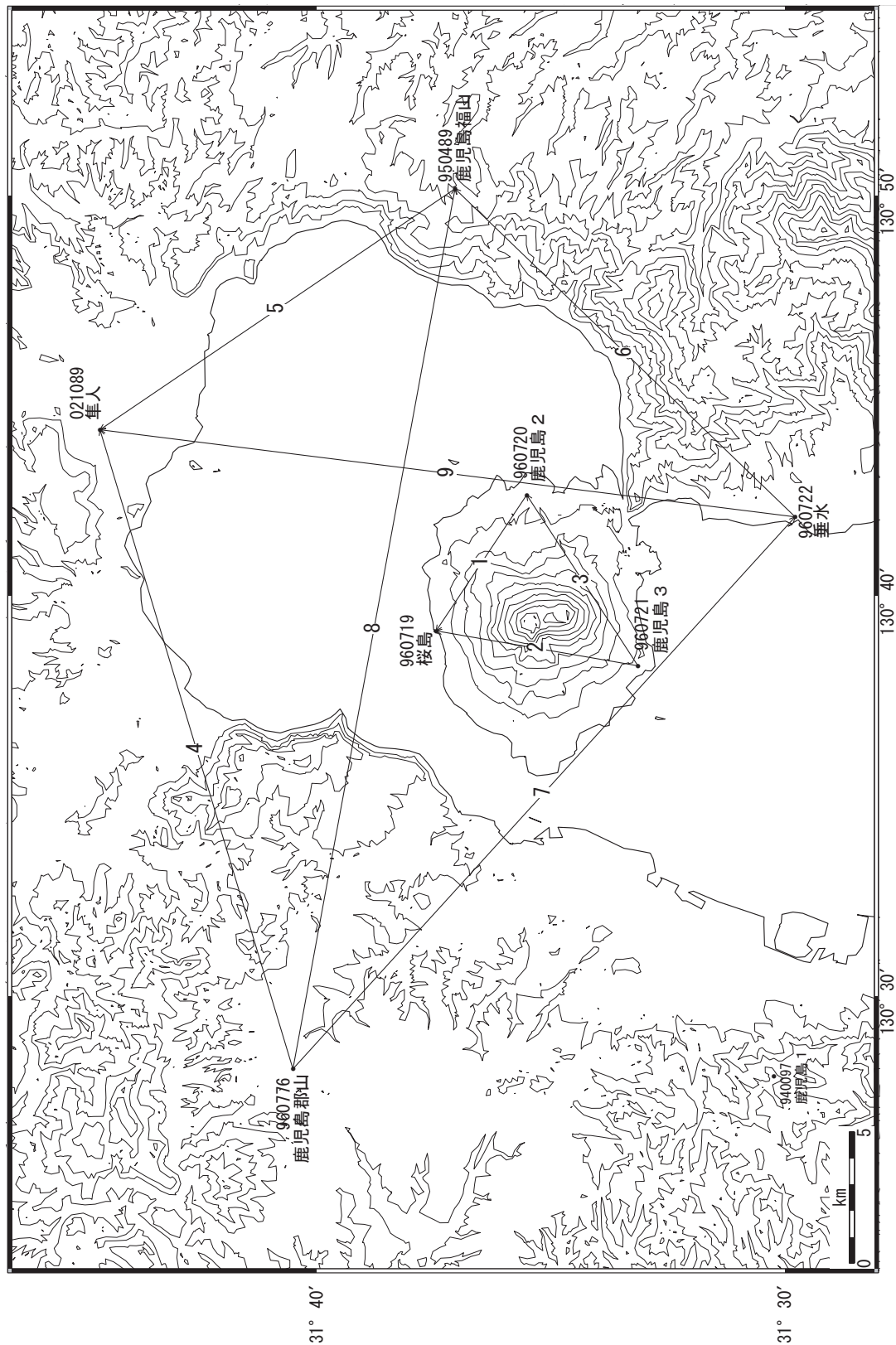


図 7 桜島 最近約 2 年間の活動状況 (2007 年 5 月 1 日～2009 年 6 月 4 日)

- ・ 昭和火口では、2 月から 4 月上旬にかけて、爆発的噴火や小規模な噴火を繰り返したが、4 月 10 日以降爆発的噴火は発生していない。
- ・ 二酸化硫黄放出量は、最近は一日あたり 500～2,000 トンで経過している。
- ・ 2008 年以降、火山性地震及び火山性微動は少ない状態で経過している。

桜島周辺 GPS連続観測基線図

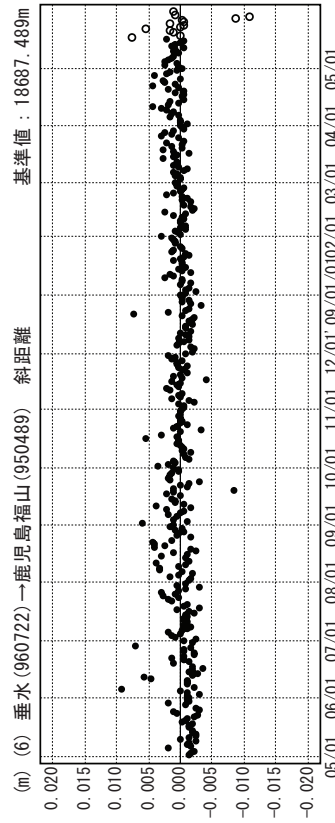
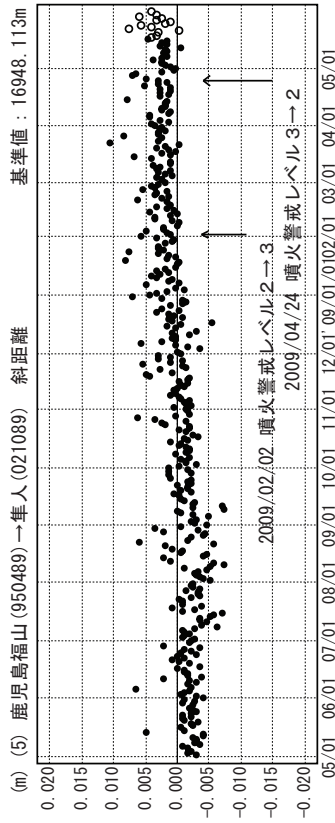
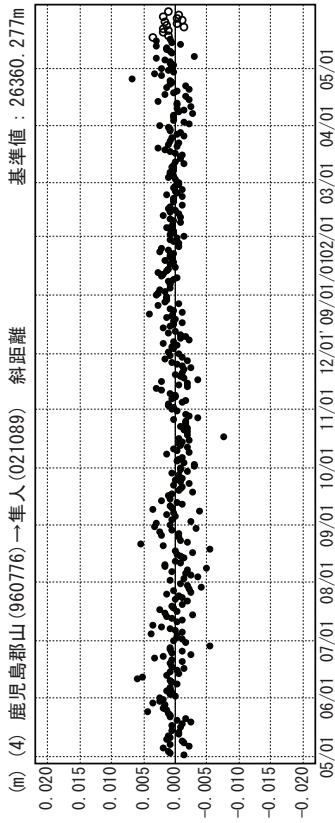


桜島周辺では、鹿兒島（錦江）湾を挟む基線で、長期的な伸びの傾向が見られる。  
2月1日、2日に発生している噴火に伴う顕著な地殻変動は見られない。

※[R3:速報解]は暫定値、電子基準点の保守等による変動は補正済み

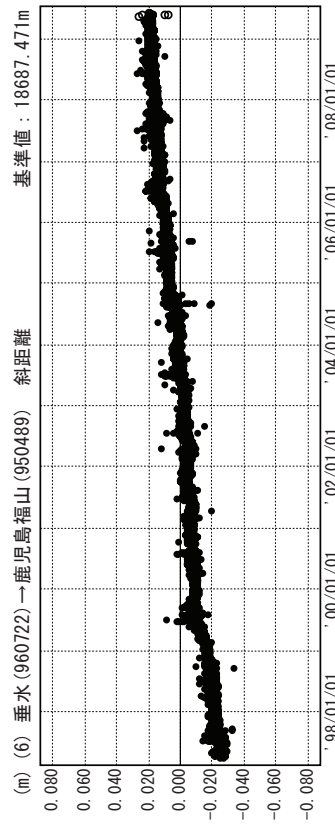
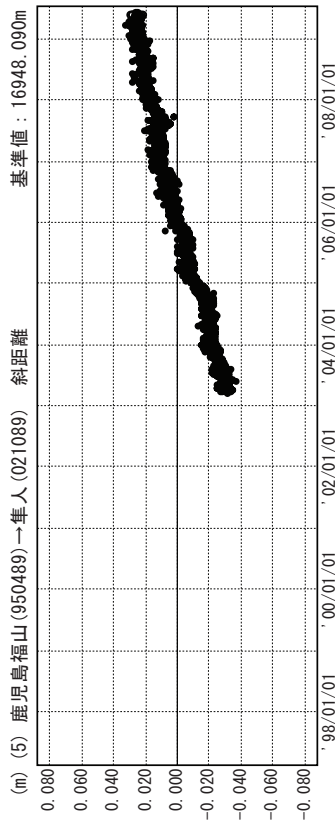
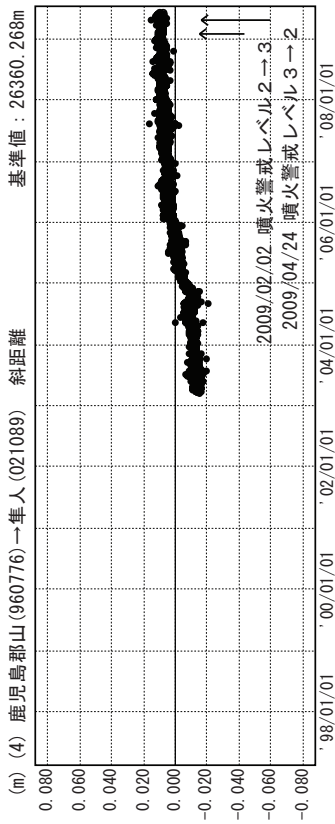
基線変化グラフ

期間：2008/05/01～2009/05/30 JST



基線変化グラフ

期間：1997/04/01～2009/05/30 JST



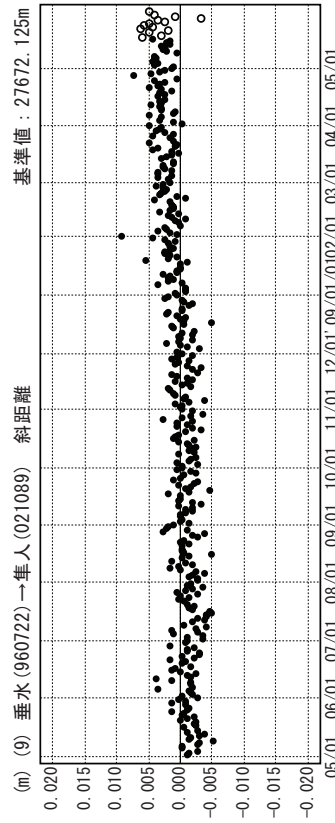
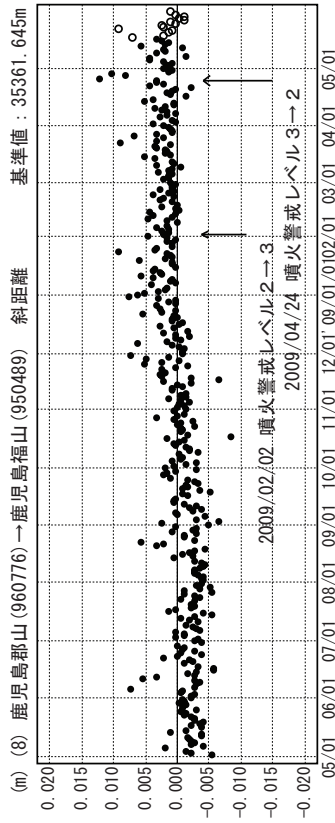
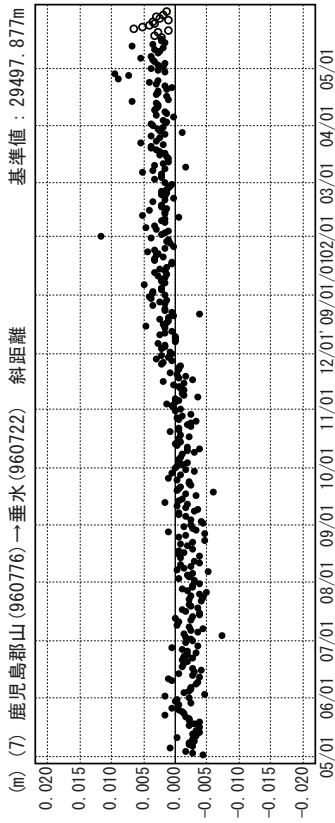
● ---[F3:最終解] ○ ---[R3:速報解]

※[R3:速報解]は暫定値、電子基準点の保守等による変動は補正済み

桜島

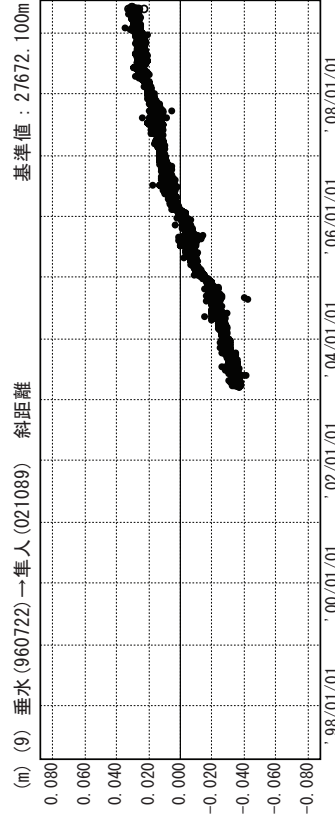
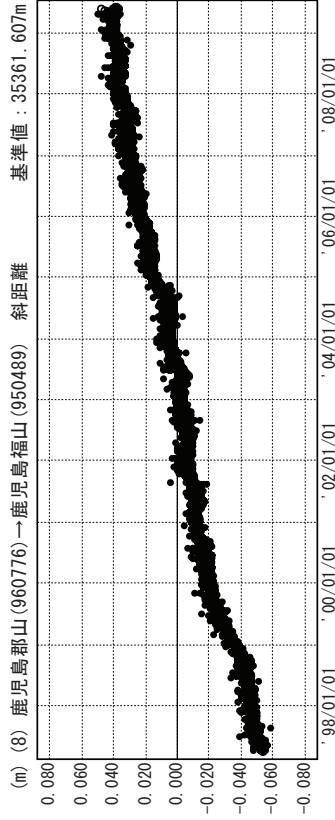
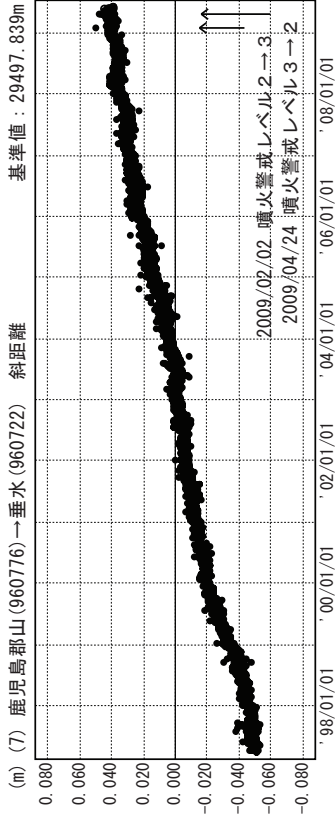
基線変化グラフ

期間：2008/05/01～2009/05/30 JST



基線変化グラフ

期間：1997/04/01～2009/05/30 JST



● ---[F3:最終解] ○ ---[R3:速報解]

※[R3:速報解]は暫定値、電子基準点の保守等による変動は補正済み



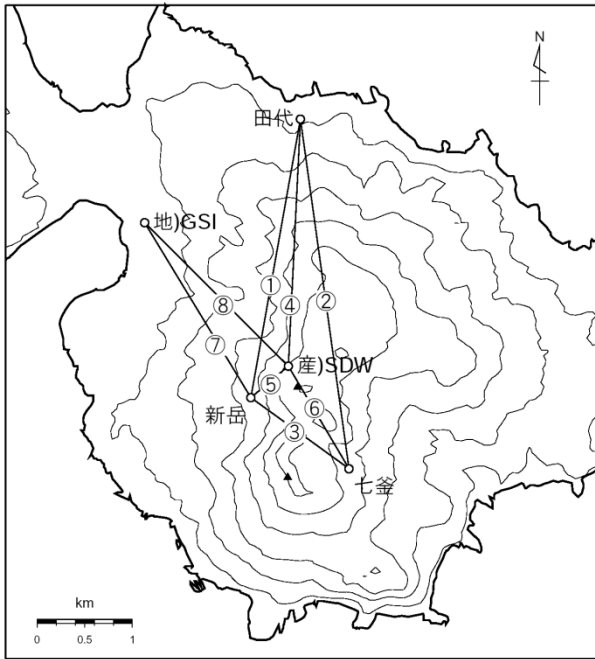


図5※ 口永良部島 GPS 連続観測基線図

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50 mメッシュ (標高)』及び『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』を使用した。

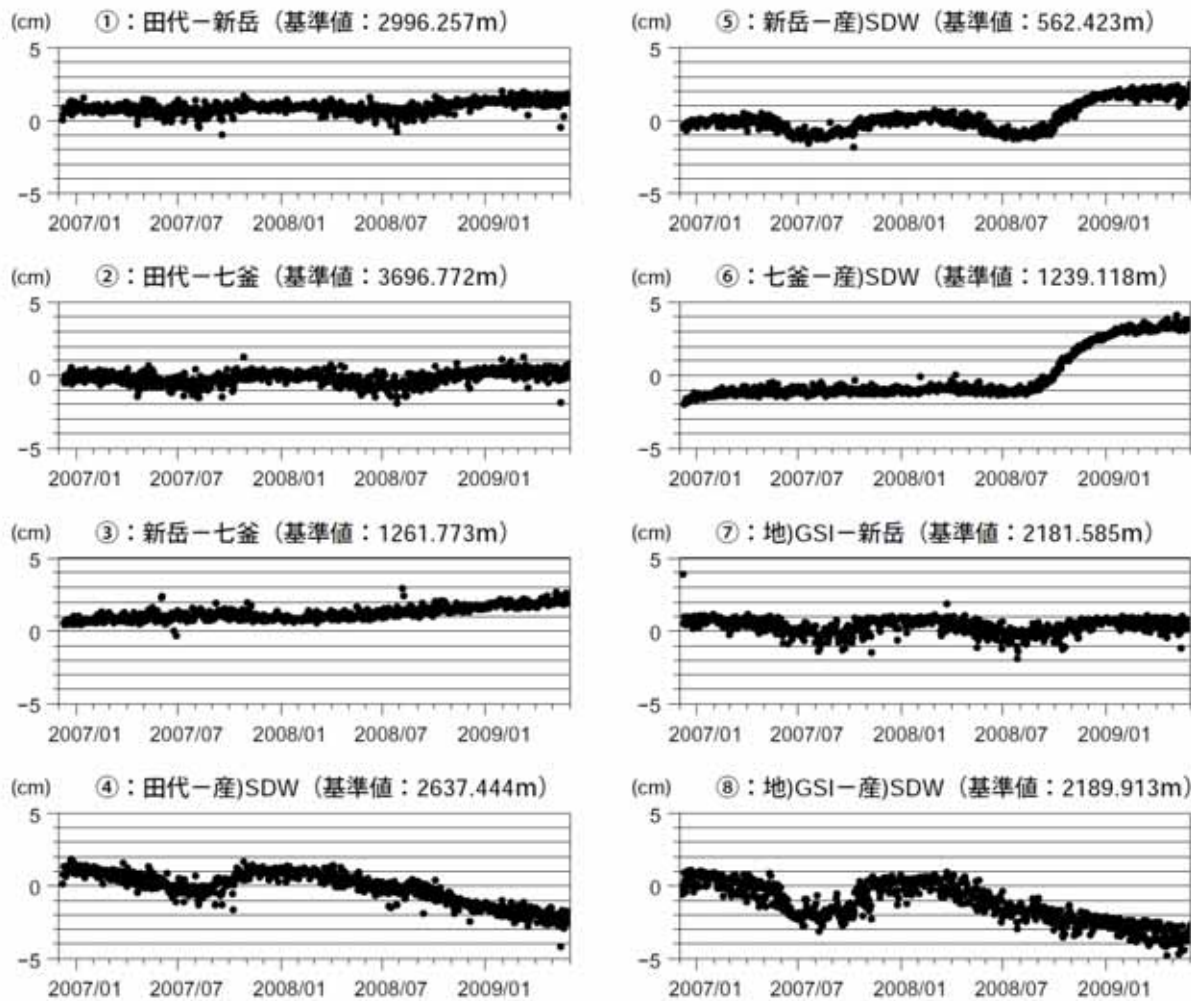


図6※ 口永良部島 GPS 連続観測による基線長変化 (2006 年 12 月 10 日～2009 年 5 月 20 日)

2008 年 9 月から続いていた新岳火口浅部の膨張を示す変化が 2 月以降鈍化している。

この基線は図 5 の①～⑧に対応している。